

学校名 北本市立東中学校
所在地 北本市山中2-128
電話 048-592-3145

1 本校の概要

各学年6組編制、全18組。生徒数646名、教職員数40名の中規模校である。図書館指導員の指導のもと図書委員が朝読書や昼休み・放課後の図書の貸出活動を運営している。蔵書数は、約12,500冊（96%）である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

読書活動の充実

(2) 実践の概要

① 読書活動の充実と図書館利用率の向上

生徒や教職員のニーズに可能な限り対応した図書環境の整備に取り組んだ。新着図書や学校行事・季節・時事等に関する特別ディスプレイの設置。地域図書館からの資料の貸与。

図書委員による学級文庫・学年文庫の設置と管理。生徒が校内のいつでも、どこでも本を手にすることができる環境作り。本を共有財産として大切に扱う態度・気持ちの育成。

生徒有志や教職員、地域のボランティアによる絵本の読み聞かせ会の開催。

② 生徒が主体的に取り組む朝読書活動

図書委員が点検簿を活用し、生徒が自主的に朝読書に取り組む体制を確立した。

③ 図書紹介カードを活用した交流授業の実施

図書紹介カードの作成とそれを活用した異学年・異校種（小中連携）交流授業の実践。



講演と読み聞かせの実演



図書紹介カード

3 成果と今後の課題

(1) 成果

異学年交流として、2年生と1年生の作品を互いに交流し、学年ホールや図書館廊下に掲示した。さらに、北本市の学びジョンプロジェクトの一環として、児童生徒の作品を活用した異校種交流授業を実施した。本校1年生と石戸小6年生の作品を交流させ、批評し合うことで、相互理解が深まったり、互いの良さを次のカード作成の際の参考点とした。読み手を意識することで、文字を正確に丁寧に記したり、難読漢字にルビを付けたり、辞書を活用してわかりやすい言葉に直す等、語彙力の向上にも繋がった。

自らの読書体験を交流し合うことで、共感し合ったり、様々な感想や考えに触れることで視野が広がった。読書に対する意欲が深まり、生徒からの新規購入図書に関するリクエスト数も増加したため新着図書のコーナーが充実し生徒の貸出冊数が増加した。

学校と地域の交流として、読み聞かせボランティアを招き、講演と読み聞かせを実践してもらった。実際に友達や地域の幼稚園・保育園等で絵本の読み聞かせに挑戦したいという生徒も出てきた。そこで、昼休みや職業体験学習・保育体験学習の時に実演する機会を設定した。書物を通じた人々のふれ合いの場が広まった。

(2) 課題

生徒や教職員のニーズに対応できる図書館環境が整備されつつあり、生徒と教職員の図書館利用率の向上、地域図書館との連携の深まり、貸出冊数も増加傾向にある。その反面、図書館利用のマナーや貸出回数の多い図書の破損、図書を新規に購入する際の基準（表現内容・モラル面）等、新たな問題が浮上してきた。集会での呼びかけ等、図書委員を中心とした対策を講じている。地域の読み聞かせボランティアや個人文庫等、有益な人材を学校教育に効率よく活用するとともに、生徒・教職員はもちろん、地域に開かれた学校図書館の運営に努力したい。